

特集

3 これからの人権教育カリキュラムづくりの手法

萱野小学校の人権教育カリキュラム

—変遷と今日の課題—

斉藤史恵

はじめに

萱野小学校の学校改革

萱野小学校の人権・部落問題学習はこの一〇年の間で、大きな変化を遂げてきた。その変化の概要と底流にあるものについて整理しまとめておく必要を感じていた。今回、萱野小学校の人権教育カリキュラムについて書く機会を得たことはその絶好のチャンスであると考えている。萱野小学校が悩みながらたどってきた軌跡を、できるだけ客観的に記述し、今後の展開を考えていくうえに生かせたらと思うている。

萱野小学校の学校改革は一九九〇年に始まったということが出来る。なぜ学校改革が必要だったのかという理由は、次の二つに集約できる。一つめには「同和教育に関する箕面市教育総合実態調査」の結果、学力保障について萱野小学校の及ぼしている効果がなく、社会的不平等の再生産をしていることが明らかになった点である。二つめには、差別事象が連続して多発した事によってわかった反差別・人権意識についてのとりくみの不十分さである。そこで、「一人ひとりの必要性や願いに応える」個別化」と、学習する課題と自分・仲間・社会との結びつ

きを大切に「総合化」を二つの柱として、学力保障と人権・部落問題学習に再度とりくみ始めたのである。

人権・部落問題学習を総合学習で

今回は、人権・部落問題学習に焦点をしばって書いていくことにする。人権・部落問題学習を総合学習の形態でやっていこうという方針が出されたのは一九九一年度であった。それ以前の約五年間は地域版『にんげん』の創造と実践の時期であったといえるだろう。総合学習の提案は、その成果と課題をふまえ、より子どもにとって意味のある学習をめざすものであった。

しかし、九一年度全部と九二年度の前半期は「総合学習とはなにか」といった議論や先進校に学ぶことに費やされた。それらに支えられて、総合学習のとりくみが始まったのが九二年の後半期からであった。その代表的なとりくみは、二年生の「土はかせになろう」、三年生の「みんなであつくりをつくらう」であった。そして九三年からは全学年での総合学習がスタートすることになった。

総合学習で大切にしていること

総合学習では、先に述べた二つの柱のうち、「総合化」を中心にすすめるのはもちろんだが「個別化」をも大事なこととして考えている。人権・部落問題学習にあたって、他人ごと・よそごととして学ぶのではなく、自分ごととして学ぶことが大切だということはどこでも強調されている。その自分ごととして学ぶということにおいて総合学習の形態や特質はとも有効であるし、「総合化」することと「個別化」することはかかせない。さらに総合学習が単なる体験活動に流れないためにも、「総合化」(「子どもと学習している内容が統合されているか」「個別化」(「一人ひとりの課題・必要性に对应しているか」という二つの柱を軸としながら、総合学習を展開することが大切であると考えている。そのうえで、総合学習で大切にするものとして以下の六点を確認してすすめている。

- ① 自分ごととして学ぶ(一人ひとりが課題としていることは何か)
- ② 学びのプロセス
- ③ 人との出会い
- ④ 人権問題との出会い

総合学習のカリキュラムづくり

では、実際に総合学習のカリキュラムはどう作成されているのかというところに筆を進めていきたい。九二年度は萱野小学校としての先例はなく、先進校でみてきた総合学習に人権の視点を入れて考えようという漠然としたイメージを持ちながら、子どもたちに「どんなことを学習したいか」を聴くことからのスタートであった。

九三年度からは学年テーマを設定し、さらにその中でもっと具体的な小テーマをそれぞれの子どもたちが選択する形になっている。その小テーマによって学習グループをつくり、調べたり、フィールドワークやききとりなどの探求活動・調査活動しながら学習していく。その学習内容をまとめ、さまざまなかたちでの発表・表現をしながら、共有しあう。その学習・活動の過程で、子どもたちが求めて、部落問題・「障害」者問題・女性問題・高齢者問題・在日外国人問題・環境問題に出あえるような仕掛けを工夫していくのである。具体例は図1の通りである。これでわかるように一九九六年度の六年生は「ま

ちづくり」をテーマに学習をすすめてきた。権利がどのようなものであり、それが暮らしの中でどのように実現していくのかということが具体的につかんでいけたとされている。

総合学習のカリキュラムは一年間の流れ図になっている。このおおまかな流れ図は年度のはじめに作成するが、具体的な展開の仕方や活動の内容やこまかい動きは、その時々、それまでの活動によって決めていかざるをえない。それも、教師サイドで決定しそれに沿って子どもたちが学習するというよりは、子どもと共に考え決定していくことになる。従って年度当初にたてるのは大まかなアウトライン的な計画であって、年度末に学年集団として学んだことの記録と一人ひとりの子どもが学んだことの記録としてのカリキュラムができあがるということになる。

人権・部落問題学習から総合・人権学習へ

この間の総合学習のとりくみを振り返ってみると、教師サイドのかっちりした枠組みに従って展開することから、子どもにそって展開することへの段階的な転換をしてきているといえる。それは、図1、図2、図3を見比

だけで完結させてきた長年の経験の蓄積がネックになって、学習観そのものの転換が難しいのが現状である。しかし、それが必要な時期にきている。

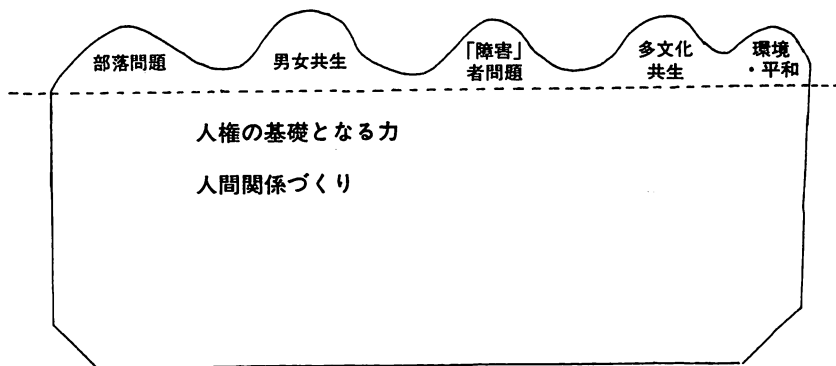
子ども一人ひとりの学んだことの記録としてのカリキュラムを明らかにしていくことがこれからは重要である。今までは学年としての学んだことの記録で精一杯だったが、一人ひとりの子どもにとつてどうだったのかを明らかにし実践を検証していくことが必要である。それによって、より鮮明に成果と課題を明らかにし、次の実践につながっていくことになる。

人権・部落問題学習を総合・人権学習として展開していくためには萱野小学校としての新しい地図づくりが必要だろう。案としては図4のように思っている。低学年ではすそ野の部分が、高学年では峰の部分がぐわしくなっているものを想定している。今は登山型のモデルで考えているが、もっと適切なモデルが考えられるのではないかとも思っている。この地図にそれぞれの学年の計画をおとしながら考えていくことによって、総合的に学習活動のプログラムを組むことができるのではないかと思っている。

総合学習テーマ一覧

	1992年度	1993年度	1994年度	1995年度	1996年度
1年	1年生になつたよ	1ねんせいものがたり	みんなでよ〜いどん	パワフルキッズ1年生	つくろう わたしたちわくわくひろば
2年	土はかせになろう	自分たんけんの旅に出かけよう	あしたはだれに会えるかな	飛び出せわくわく探偵団	レッツゴー スマイル!
3年	みんなでまつりをつくろう	くらしの名人になろう	おどろきものきくらし大発見	われら忍たま萱野っ子	広がれ友だちの輪、わ!
4年	がんばれ地球たんけんたい	地球とはもつとなかよくなれるんだ	くらし探検	のぞいてみよう生活の?	飛び出せ環境探偵団 ~あたりまえの地球を求めて~
5年	地球大すき わたしたちのエコロジーチェック	みんないろいろだから楽しい	かやの地球村 ~はじめのだいっぽ~	かやの地球村 ~飛び出そう世界へ~	つながろう世界と ~かやの地球村~
6年	一人ひとりの生活と重ねて	創ろう卒業式! みんなでスクラム	タイムトラベル	こんな社会がいいな ~かやの地球村の市長として~	夢・出会い・発見 ~わたしたちのまちを創ろう!

総合・人権学習の展開図



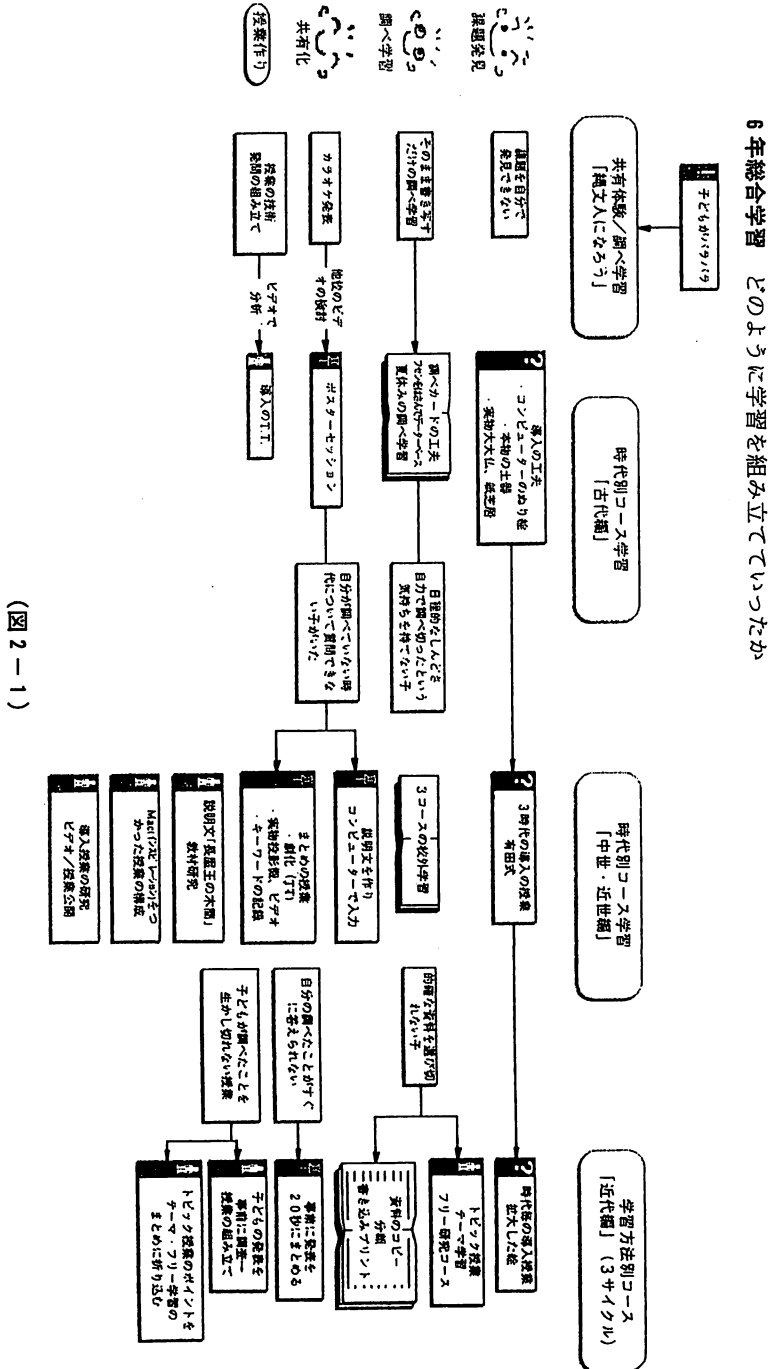
(図4)

べていただければおわかりのことと思う。

九一年度当初は、総合学習に人権の視点をいれれば、子どものニーズによりそった人権・部落問題学習の展開が可能ではないかと考えていた。この間のとりくみの積み重ねによって「いける」という確信は強まってきている。従って九六年度には名称を総合・人権学習と変更した。

これからの課題

「とにかくやってみよう」ですすめてきた結果から生じてくる不十分さの一つとして、総合学習のカリキュラムのたてかたが従来とは違ってくることをきっちり教職員集団として共通認識できていないことがあげられる。実際には必然的に先に述べたようなカリキュラムのつくりかたになっていくのにもかかわらず、それ以前の目標と教材を設定するかたちのカリキュラム(図3、一九九三年度六年生の人権部落問題学習カリキュラム)に依拠するところからなかなか脱し得ないのである。総合・人権学習で展開していくには学年教職員集団の力量と学校を中心とした地域も含めたネットワークが重要になってくる。目標↓教材↓授業↓評価の繰り返しを自分の学級



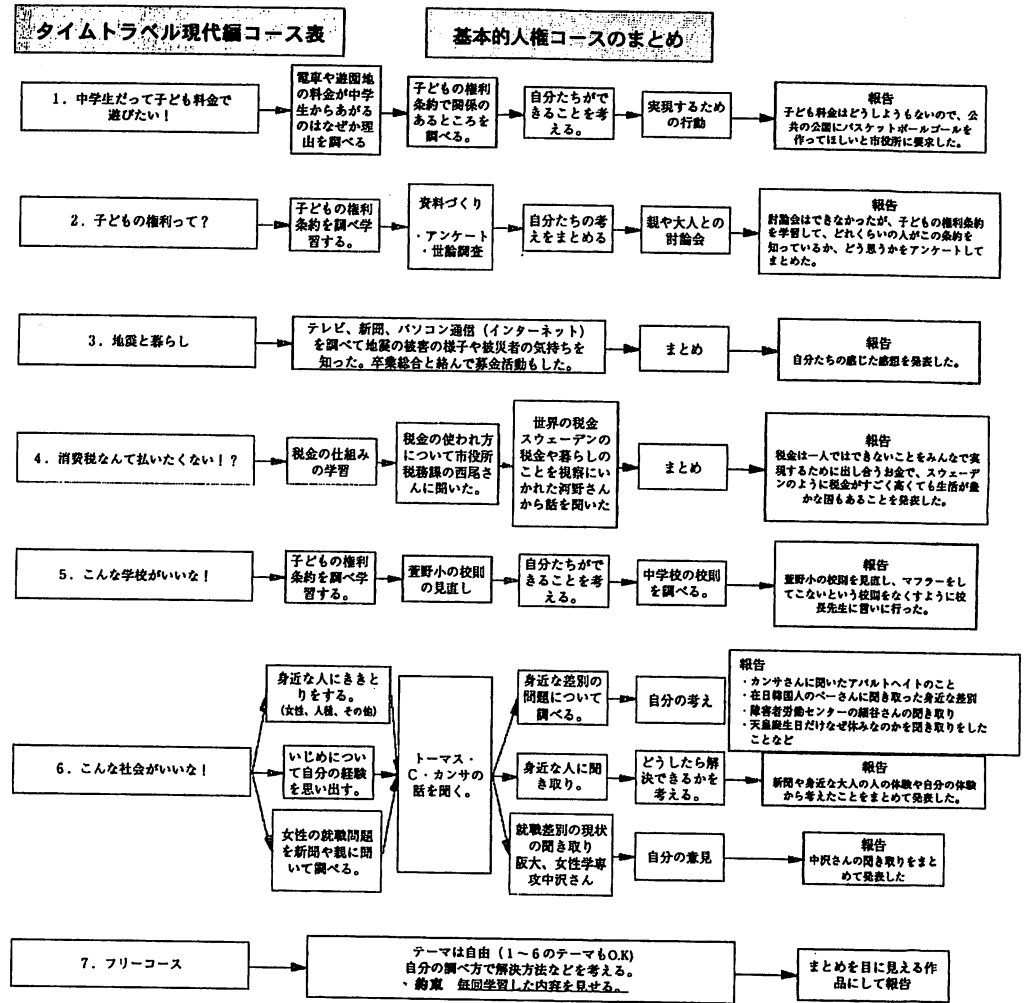
(図 2-1)

1993年度 第6学年

目標 身の周りや社会の矛盾や不合理に気づき、それに立ち向かう力を育てる。

単 元 づ く り		単 元 づ く り					
<p>・生活を見つめるなかで、自分のおかれた立場や友だちの願いや思いを知り、お互いに共感し、支え合い、矛盾に立ち向かう集団をめざす。</p> <p>・学級会・学年集会を通して、学級・学年集団の一員としての自覚を持って行動する力をつける。</p>							
部 落	労働	反戦平和	「障害」児	在日韓国人	集団	男女共生	
<p>・歴史学習の中で身分制度をつくった政治制度を具体的資料を通して明らかにしながら差別解消の成立を知る</p> <p>・一定の運動の成果として今の社会があることを知り、その中で闘ってきた人間の強さ、復讐さを学習する。</p> <p>・今の社会にも現存する矛盾や不合理に立ち向かう。</p>	<p>・親、家族の労働を通して仕事の厳しさ、喜びを知る。</p> <p>・労働を通して見えてくる社会の矛盾に気づき力をつける。</p>	<p>・戦争、侵略に対しての「怒り」を持たせ、日本の加害者の立場も認識させる。</p> <p>・戦争が「人権」や「人間としての優しさ」を奪っていくことを認識させ、自分の日常の行動にも目を向けさせる。</p>	<p>・「障害」を持つ友だちのことを知り、それぞれ違っていることをお互いに認め合う。</p> <p>・修学旅行、時間問題で在日朝鮮人のおかれた立場や、想いを知り、ともに生きる社会を考える。</p>	<p>・歴史学習の中で、正しい朝鮮認識を育てる</p> <p>・修学旅行、時間問題で在日朝鮮人のおかれた立場や、想いを知り、ともに生きる社会を考える。</p>	<p>・語り話し合うことによつて自分の生活や、友だちの生活を切り開いていく力をつける。</p> <p>・各行事を通して、学年どおしのつながりをより深めていく。</p>	<p>・男女がお互いの命を大切に、協力し合う態度を養う。</p> <p>・従来の男女の役割の不都合に気づき、社会の一員としての自分の生き方を考える。</p> <p>・第二次性徴(男子)を知る。</p>	
材 料	材 料	材 料	材 料	材 料	材 料	材 料	
<p>・歴史学習</p> <p>・洗染一揆</p> <p>・人間に光あれ。(VTR)</p> <p>・地域教材 北芝水平社</p> <p>・聞きとり</p>	<p>・綴り方、日記</p> <p>・女性労働者</p> <p>・自分史</p>	<p>・修学旅行</p> <p>・歴史学習</p> <p>・反戦教材 石うすの歌 地図にない鳥 歌</p> <p>・聞きとり</p>	<p>・綴り方、日記</p> <p>・「障害」を持つ労働者</p> <p>・ぼく学校に行きたいねん</p> <p>・がんばれ勇くん (紙芝居)</p>	<p>・歴史学習</p> <p>・聞きとり</p> <p>・故郷をひきはなされて</p>	<p>・日記、綴り方</p> <p>・学年集会</p> <p>・学年行事</p>	<p>・日記、綴り方</p> <p>・家庭科</p> <p>・女性労働者</p>	
設 定	設 定	設 定	設 定	設 定	設 定	設 定	
<p>・歴史学習</p> <p>・洗染一揆</p> <p>・大正デモクラシー</p>	<p>・綴り方、日記</p>	<p>・愛とかなしみのサハリン (ビデオ)</p> <p>・学習発表会「野ばら」</p>	<p>・「障害」と人権 (ビデオ)</p> <p>・日記、綴り方</p>	<p>・愛とかなしみのサハリン (ビデオ)</p> <p>・聞きとり (学習発表会)</p>	<p>・日記、綴り方</p> <p>・学年集会</p>	<p>・日記、綴り方</p> <p>・家庭科</p>	
級 合	級 合	級 合	級 合	級 合	級 合	級 合	
<p>・聞きとり (上田正勝さん)</p> <p>・金館訪問 (小島よしおさん)</p> <p>・聞きとり (ジョンさん)</p> <p>・自分史</p>	<p>・聞きとり (飯田しづえさん)</p> <p>・小川知三さん (新聞記者)</p> <p>・田中正造 (ビデオ)</p> <p>・野波峠 (ビデオ)</p> <p>・自分史</p>	<p>・聞きとり (747-N311さん)</p>			<p>・自分史</p> <p>・学校にまろう会</p>	<p>・聞きとり (飯田しづえさん)</p> <p>・与野野品子 (ビデオ)</p> <p>・翠摩指島 (ビデオ)</p>	
学習計画							
時間	学習内容	指導上の留意点					
1	・4コースの中から自分の調べたい課題を選び、学習する。	・大正デモクラシーの課題はそれまでの学習で学習する。					
2	・各コース別に1斉授業を受ける。	・ビデオ、聞き取りなどを取り交ぜ、興味づけを行う。					
3	・各コース別に1斉授業を受ける。	・ビデオ、聞き取りなどを取り交ぜ、興味づけを行う。					
4	・各コース別に1斉授業を受ける。	・ビデオ、聞き取りなどを取り交ぜ、興味づけを行う。					
5	・各コース別に1斉授業を受ける。	・ビデオ、聞き取りなどを取り交ぜ、興味づけを行う。					
6	・自分の計画にしたがって、調べ学習をする。	・自学をレポートするためのプリント、資料、ビデオなどできるだけ準備する。					
7	・自分の計画にしたがって、調べ学習をする。	・資料はコーナーを設け、テーマ、資料の種類により分類し、展開しやすくする。					
8	・自分の計画にしたがって、調べ学習をする。	・資料はコーナーを設け、テーマ、資料の種類により分類し、展開しやすくする。					
9	・自分の計画にしたがって、調べ学習をする。	・資料はコーナーを設け、テーマ、資料の種類により分類し、展開しやすくする。					
10	・自分の計画にしたがって、調べ学習をする。	・資料はコーナーを設け、テーマ、資料の種類により分類し、展開しやすくする。					

(図 1)



(図2-2)

5年 総合・人権学習の経過

3学期
特選「子ども」子どもの権利条約
「子ども」って何？

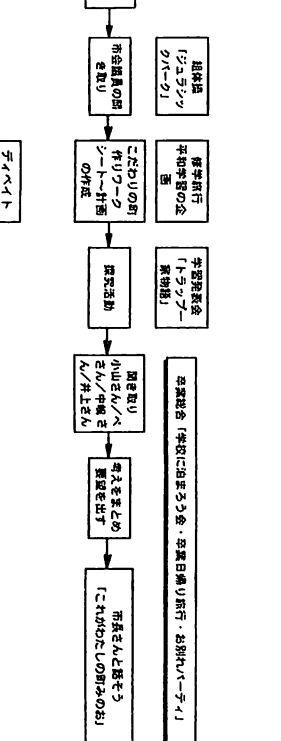
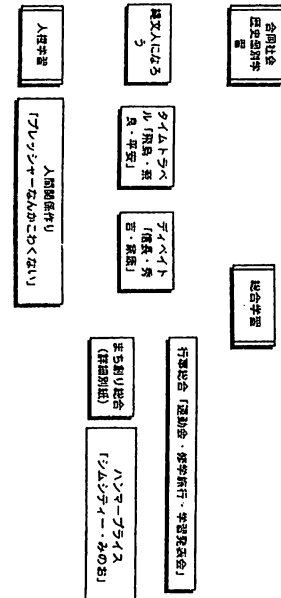
6年 総合・人権学習の経過

1学期
全国社会
基本法
憲法

2学期
総合学習

3学期

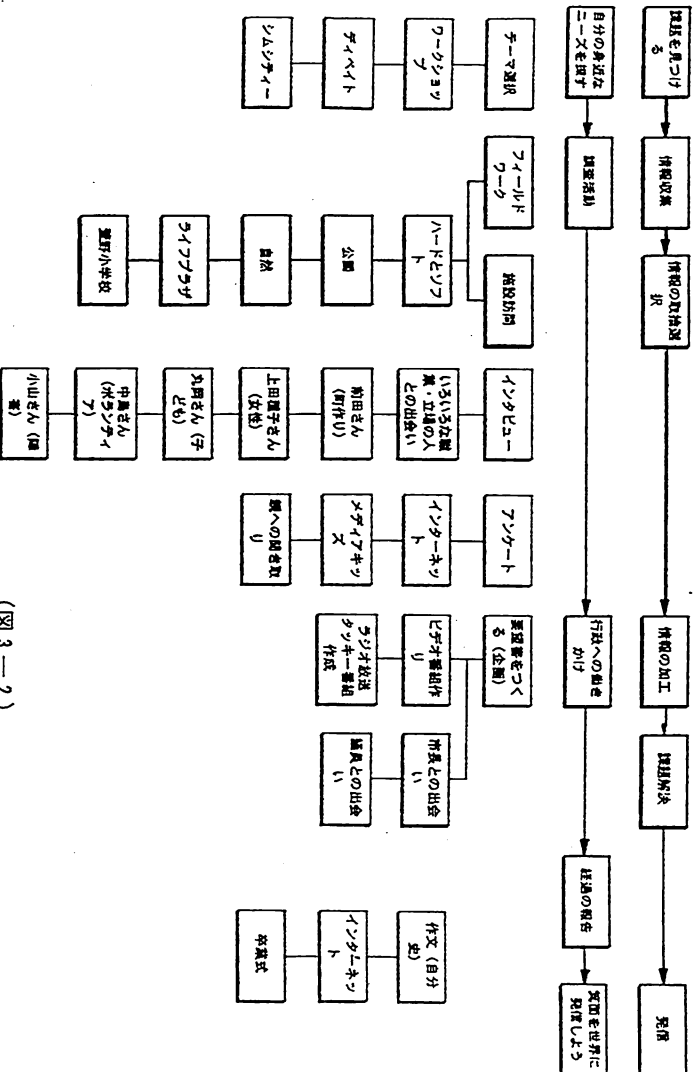
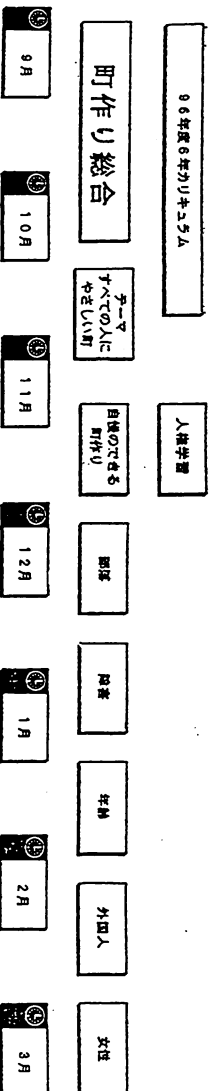
人権学習	総合	社会	国語	算数	理科	音楽	体育	美術	外国語	特別活動	家庭科	保健体育	職業科	その他
人権学習	人権学習	人権学習	人権学習	人権学習	人権学習	人権学習	人権学習	人権学習	人権学習	人権学習	人権学習	人権学習	人権学習	人権学習
特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動	特別活動
総合学習	総合学習	総合学習	総合学習	総合学習	総合学習	総合学習	総合学習	総合学習	総合学習	総合学習	総合学習	総合学習	総合学習	総合学習



人権学習の目標

社会生活の矛盾や差別は数多く存在することを知ることによって知る。
 マイノリティーの立場になって状況を考えることができる。
 自分自身の生活に責任をもちながら、一番身近な人権問題について考えたい。
 自分自身の差別意識を省くこと、差別し、自分自身について思い返すこと。
 主体的な生きかたを身につけるように入会の問題について多角的な考えをもち、
 さまざまな体験を通して自分自身を客観的にとらえられるようになる。
 自分自身の身近な生活を築いていくために自分たちがやるべきことを実行する。
 社会に働きかけるためのさまざまな方法を体験する。

(図3-1)



(図 3—2)